

# 「群馬ならではの新しい学び」の充実に向けたICT活用（基本編）

## 1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力とGIGAスクール構想

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来にあたり、教育においては、一人一人の子供が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるよう、その資質・能力を確実に育成することが求められています。

この実現には、新学習指導要領の着実な実施が重要であり、これまでの我が国の教育実践の蓄積を生かしながら、先端技術が高度化するSociety5.0時代を生きる子供たちに対して、ICTを基盤とした技術を活用した学習活動を充実させた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図ることが大切となります。

それに伴い、文部科学省から「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力が確実に育成できる教育ICT環境を充実させる」ための事業「GIGAスクール構想」が示されました。

※GIGA：Global and Innovation Getaway for All(全ての子供たちにとってグローバル人材・革新を起こせる人材になるための入り口)

### 「Society5.0時代」

・人工知能 (AI)、ビックデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられていく社会

### 子供たちに求められる資質・能力の育成

#### 新学習指導要領の着実な実施

これまでの  
教育実践の蓄積



組合せ

ICT



促進

主体的・対話的で深い学び  
の実現に向けた授業改善

多様な子供たちを「誰一人取り残すことない、公正に個別最適化された学び」の実現

ICTを基盤とした先端技術や  
教育ビックデータの効果的な活用

#### 「GIGAスクール」構想

教育の質を向上させることを期待

- 「1人1台端末」等と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備  
<目指すべき次世代の学校・教育現場>
- ・ 学びにおける時間・距離などの制約を取り払う ～遠隔・オンライン教育の実施～
- ・ 個別に最適で効果的な学びや支援 ～個々の子供の状況を客観的・継続的に把握・共有～
- ・ 校務の効率化 ～学校における事務を迅速かつ便利、効率的に～
- ・ 学びの知見の共有や生成 ～教師の経験知と科学的視点のベストミックス（EBPMの促進）～

※EBPM：Evidence Based Policy Making 客観的な根拠を重視した教育政策の推進

## 2. ICT（1人1台端末等・高速通信）を活用することのよさ

ICTの活用は、**学びの質**や、**学びの転換**（学び方や教師の指導・支援）に大きな影響をもたらします。ICTを活用すること自体が目的化してしまわないように、従来の環境では実現できなかったICTを活用した学びの「よさ」を教師が十分に理解しておくことが大切です。

以下のように、これまでできなかった学びや教師の指導・支援、従来よりもより一層育むことのできる資質・能力を確認した上で、ICTを効果的に活用しましょう。

1人1台端末等の整備



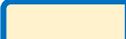
高速通信ネットワークの整備



子供同士、子供と教師、家庭や地域  
様々な人や空間・時間がつながる

全ての子供たちの可能性を引き出す、**個別最適な学び**と**協働的な学び**を実現

(例)

※は、 期待できるICT活用の効果

多様化する子供たちに対応

「個別最適な学び」

【指導の個別化】

・必要に応じた重点的な指導、指導方法等の工夫  
学習内容の  
確実な定着

【学習の個性化】

・一人一人に応じた学習活動・学習課題の提供  
学習内容の理解を  
深め、広げる

○授業中でも一人一人の学習状況を即時に、そして、一覧把握し、指導に生かすことができる。（教師が、全員を対象にした双方向型の授業も可能）

○一人一人の教育的ニーズに応じた個別学習が可能となる。（子供が、より高度な学びの機会を得ることも可能）

一体的に  
**主体的・対話的で深い学び**

充実

「協働的な学び」

思考力・判断力・表現力のさらなる育成

異なる考え方を  
組み合わせ、  
よりよい学びを  
生み出す

学びの主体者として  
可能性を  
発揮する

○多くの考えに触れ合い、幅広く比較・検討することで、考えを広げ深めたり、創造したりすることができる。（多様性・共有性）

○他校や外部機関・海外等とつながることで発展的な対話的な学びが実現できる。（発展性）

○集団の中で、一人一人が自信をもって考えを表現することで、個性や可能性を発揮することができる。（自己肯定感・存在感）

○Society5.0時代に向け、より一層、情報活用能力などの学習の基盤となる資質・能力を育むことができる。

○地理的要因や地域事情にかかわらず学校教育の質を保障することができる。

○災害や感染症等の発生など緊急時にも教育活動を継続することができる。

※今後、児童生徒がICTを日常的に活用することにより、自らの学習を調整しながら学んでいくことができるようになるとともに、予想しなかったような形で児童生徒の可能性が引き出されることも考えられる。